

日本学校心理学会 第 11 回大会

子どもが伸びる学校
～教師力・学校力を高める学校心理学～



プログラム ・ 発表抄録集

2009 年 8 月 1 日（土）・2 日（日）

於：北翔大学

後援：北海道教育委員会・江別市教育委員会
日本学校心理士会

日本学校心理学会 第11回大会のご案内

日本学校心理学会第11回大会を北翔大学で開催することになりました。

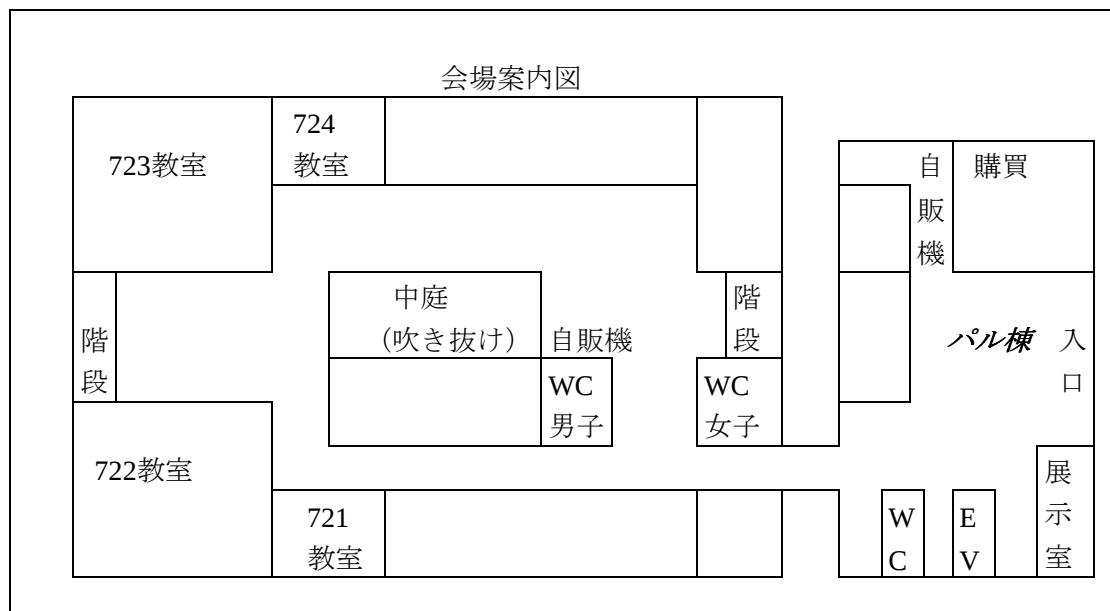
今年度のテーマは、「子どもが伸びる学校～教師力・学校力を高める学校心理学～」とさせていただきます。教育基本法の改正では、学校・家庭・地域の連携が新たな条文として加えられました。学校、家庭、地域がそれぞれの役割を自覚して、責任をもって子どもの可能性を育むことが求められております。そのためには、教師一人ひとりが、そして、チームとしての教師集団、いわば学校が、子どもたちの学習を、生活を支えていくことが必要です。今、学校教育は大きな変革の時期にあります。学校心理学がその変革の時期に教師、学校にどのように貢献できるかを今回の大会では深めていきたいと考えています。

今大会では、基調講演、鼎談、ポスター発表、実践発表、ワークショップを行い、学校心理士の方には資格更新の研修会にも位置づけています。会員の方、学校心理士の方のお役に立つ学会にしたいと思っています。なお、2日目には、大学祭も開催されております。時間の合間にお楽しみ下さい。

皆様の参加を心から歓迎いたします。

大会実行委員長

北翔大学 山谷 敬三郎



※昼食は、パル棟4階、メインカフェテリア (Hashi)でどうぞ。

日本学校心理学会第 11 回大会プログラム

大会テーマ 子どもが伸びる学校

～教師力・学校力を高める学校心理学～

1. 期 日 平成 21 年 8 月 1 日（土）・2 日（日）

2. 会 場 北翔大学

〒069-8511 北海道江別市文京台 23 番地

TEL : 011-386-8011

JR 大塚駅（函館本線）徒歩 10 分

JR 新札幌駅（千歳線）バス 10 分

3. 日 程

8月1日	9:00～	9:45 ～12:00	12:00 ～13:30	13:30 ～15:15	15:30 ～17:30	18:00～
	受 付	記念講演	昼 食 各種委員会	鼎 談	ポスター 発 表	懇親会
8月2日	10:00 ～12:00	12:00 ～13:00	13:00 ～14:00	14:00 ～16:00		
	実践発表	総 会	昼 食	スキルアップ・ ワークショップ		

4. 内 容

8月1日（土）

(1) 記念講演 午前 9 時 45 分から 12 時 00 分まで＜723 教室＞ {研修会 A}

講師：石隈利紀（いしくま としのり）

（日本学校心理学会理事長：筑波大学教授）

演題「子どもを伸ばす学校心理学の最前線」

講師：山谷敬三郎（やまや けいざぶろう）

（第 11 回大会実行委員長：北翔大学教授）

演題「子どもを伸ばすコーチング」

2) 鼎談 午後 1 時 30 分から 3 時 15 分まで<722 教室> {研修会 B}

テーマ「学校心理学の魅力とは」

講師：石隈利紀（筑波大学教授）

大野精一（日本教育大学院大学教授）

山谷敬三郎（北翔大学教授）

学校心理学会が設立されて 10 年が経過しました。児童生徒の支援のために、これまで各学校において真剣に取り組まれてきた生徒指導、教育相談の考えや実践、また、スクールカウンセラー導入に伴う臨床心理学やカウンセリング心理学の考えや実践との共通点、相違点は何かを明らかにし、学校心理学が寄与する理論と実践について討議します。

(3) ポスター発表 午後 3 時 30 分から 5 時 30 分まで<721・724 教室>

<P 1 から P15 までの方は 721 教室> 在席責任時間 3 時 30 分から 4 時 15 分

<P16 から P30 までの方は 724 教室> 在席責任時間 4 時 45 分から 5 時 30 分

※なお、ポスター発表者のグループ討議は、4 時 15 分から 30 分間行います。

【グループ討議の進め方】

①グループの構成

1 班<P1～P7> 2 班<P8～P15> 3 班<P16～P22> 4 班<P23～P30>

②進行

各グループの一番番号の若い方が始まりの進行役をしてください。

その後の進行役を決めるなど、自由にグループごとに決め、充実したグループ討議となるよう、皆さんのご協力をお願いします。

(4) 懇親会：午後 6 時から 2 時間程度（場 所：サッポロビール園）

移動手段：本学南門から無料バス（5 時 40 分発）を運行します。利用ください。

8月2日（日）

(1) 実践発表 午前 10 時 00 分～12 時 00 分

「学級」「学校」の取り組みや「地域」「家庭」との連携についての実践事例について、発表いただくことを計画しております。その報告について、コメンテーターを交えてディスカッションします。発表とディスカッションを通して、現場の実践から「成功の鍵」や「試行錯誤」を含めて深く学ぶ時間にしたいと考えています。「学校心理学」の考え 方を使って実践を見直してみる機会にしたいと思います。

・実践発表①「学級・学校での実践から」<722 教室> {研修会 B}

コメンテーター：藤原正光 文教大学

発 表 者：藤井 壽夫 函館市立的場中学校

発 表 者：三浦 公裕 札幌市立平岡中学校

学級における苦戦している子どもの援助や、保護者とのパートナーシップづくりについての実際について、苦戦や迷いも含めて報告していただきます。一人ひとりの子ども に

関する援助を学級でどう行うか・・・小・中・高等学校の学級・ホームルーム経営の立場と、相談室、保健室からの援助という側面から検討します。

・実践発表②「特別支援教育の実践から」＜723 教室＞

コメンテーター：上村 恵津子 信州大学

発表者：大平 道子 大阪府高槻市立五領小学校

小・中・高等学校における特別支援教育の実践を、地域資源である特別支援学校などとの連携によって、どのように充実させていったかについて発表していただきます。特別支援教育のコーディネーターを中心として、学校がどのように地域資源を活用するか に焦点を当ててディスカッションを行います。

(2) 総会 12時00分～13時00分 ＜722 教室＞

学会の進路を決める重要な会務総会です。会員の皆様の積極的な参加をお願い致します。

(3) スキルアップ・ワークショップ 14:00～16:00＜研修会 A＞

学校心理学的な援助スキルについて学ぶワークショップを考えております。できるだけ演習を取り入れて、体験を通して学ぶ時間にしたいと考えています。子どもを活かし、援助者を活かすスキルの向上をはかります。

①学習の苦戦の援助～子どもの得意な「学習スタイル」を活かして～＜722 教室＞

講師：東原文子 筑波大学

個別知能検査（WISC Ⅲと K-ABC）のモデルを活用して、「言語型－非言語型（操作型）」、「聴覚型－視覚型」、「継次処理型－同時処理型」など、子どもの得意な学習スタイルに焦点をあてた、学習の援助の方法について、一緒に学びましょう。授業の工夫、個別指導の工夫へのヒントを獲得しましょう。学習面の援助の鍵は、一人ひとりの子どもの得意な学習スタイルの発見と活用にあると思います。

②子どもの「学校生活」スキルの促進＜724 教室＞

講師：山口豊一 跡見学園女子大学

本田真大 日本学術振興特別研究員（筑波大学）

子どもたちが学校生活を送るうえで、さまざまなスキルが求められます。自己学習スキル、コミュニケーションスキル、集団活動スキル、進路決定スキル、健康維持スキルなどです。今回は、授業や生活の一場面の中ですぐに使える「子どもの学校生活スキルを伸ばすスキル・トレーニング」について、ロールプレイを通して学びたいと思います。

③事例研究の方法＜723 教室＞

講師：田村節子 明治学院大学

難波博子 鎌倉市教育センター

具体的な事例を挙げて、援助の開始から、援助チームをどう立ち上げていくか、そして、校内での援助にどのように広げていくかについて、具体的な流れを、事例研究を通して検討します。それをもとに参加者の皆さんと一緒に学び考える時間にしたいと思います。特

別支援の必要な子どもの支援を取り上げたいと思います。

(3) ポスター発表 午後 3 時 30 分から 5 時 30 分まで<721・724 教室>
<P 1 から P15 までの方は 721 教室> 在席責任時間 3 時 30 分から 4 時 15 分
<P16 から P30 までの方は 724 教室> 在籍責任時間 4 時 45 分から 5 時 30 分

※なお、ポスター発表者のグループ討議は、4 時 15 分から 30 分間行います。

<会場 7 2 1 教室>

【1 班】

P－1 子どもの意欲（やる気・元気）を育む生徒指導

－問題行動に見られるマイナスの自己概念を中心に－

森山 賢一（玉川大学教育学部） 柏 頼英（常磐大学人間科学部）

P－2 子どもの意欲（やる気・元気）を育む生徒指導

－プラスの自己概念からコミュニティースクールへの発展へ－

柏 頼英（常磐大学人間科学部） 森山 賢一（玉川大学教育学部）

P－3 小・中学生の学習活動・意欲に影響する要因の検討

高田 薫（鎌倉市立植木小学校）

P－4 望ましい集団を形成するための指導・支援の在り方

－児童生徒の発達段階に応じた社会的スキルを育成するためのプログラムの開発と効果測定工夫を通して－

石塚 浩司（古河市教育委員会）

P－5 中学生の悩みの相談の実態

－相談経験の有無、悩みの深刻さ、相談時期からみた援助要請行動の特徴－

本田 真大（日本学術振興特別研究員（筑波大学）） 新井 邦二郎（筑波大学大学院人間総合科学研究科） 石隈 利紀（筑波大学大学院人間総合科学研究科）

P－6 学校不適応事例への公的支援における現状と課題

～福祉の手がさしのべられない子どもたち～

高谷 みゆき（帯広市スクールソーシャルワーカー）

P－7 高校生女子 1 年生の数学不安に関する研究

向田 憲生（神奈川県立保土ヶ谷養護学校）

**P－8 大学における「書くこと」の教育が、大学生の認知欲求・相互独立的
－相互協調的自己観・考える力に与える影響**

湯浅 俊夫（一橋大学）

【2班】

P－9 不登校児童・生徒への登校支援事業

－ネットワーク型援助チームの取り組み－

長尾 孝男（岩見沢市教育委員会青少年センター）

P－10 状況画の本質的理解に困難のある小6女兒に対する指導

－感情語カードを用いた物語作文を通して－

満田 琴美（みすず会教育相談室） カンミンギョン（筑波大学大学院人間
総合科学研究科） 東原 文子（筑波大学大学院人間総合科学研究科）

**P－11 集団参加が困難な中学生に対する小集団場面を利用した積極性を育
てる指導**

戸祭 あゆみ（筑波大学大学院人間総合科学研究科） 東原 文子（筑波大学）
永田 真吾（筑波大学人間総合科学研究科） 満田琴美（みすず会教育相談 室）
栗原 龍一郎（筑波大学人間総合科学研究科） 中山 貴雄（筑波大 学人間
総合科学研究科）

P－12 中学生の学校適応感と自尊感情に関する研究

石川 章子（跡見学園女子大学大学院人文科学研究科臨床心理学専攻）

松壽 くみ子（跡見学園女子大学大学院教授）

P－13 進路実現に向けた特別支援の取り組み

－A君に対する個別支援の取り組み－

武智 智子（北海道北見市立光西中学校）

P－14 不登校生への不登校要因のアセスメントと対応について

－石隈・田村式援助シートを使用した情報収集－

山崎 優子（竹早教員保育士養成所）

石隈 利紀（筑波大学大学院人間総合科学研究科）

P－15 特別支援教育のための地域のネットワーク作り

－オホーツク児童思春期研究会の取り組みから－

瀬戸 美奈子（北海道公立学校スクールカウンセラー）

＜ 7 2 4 教室＞

【3班】

P－16 教師を対象としたチーム援助研修が被援助志向性に与える影響（2）

水野 治久（大阪教育大学） 梅川康治（堺市教育委員会）

P－17 コーディネーション委員会の機能の研究

－機能の発揮のされ方について－

家近 早苗（聖徳大学）

P－18 スクールカウンセラーの成長に関する研究その1

－質問紙による測定－

新井 裕（さいたま市特別教育相談センター）

新井 ひと美（埼玉県スクールカウンセラー） 山崎 沙織（鳥取県スクールカウンセラー） 高橋 早苗（横浜市スクールカウンセラー） 渡邊 亮子（あきる野市教育相談所） 飯田 順子（東京成徳大学）

P－19 スクールカウンセラーの成長に関する研究その2

－自由記述による検討－

津田 智彰（東京都スクールカウンセラー）

高野 桂実（静岡県スクールカウンセラー） 恒松 泰子（千葉県スクールカウンセラー） 阿部 博子（東京都スクールカウンセラー）

河野 愛香（足立区教育相談センター） 飯田 順子（東京成徳大学）

P－20 スクールカウンセラーと教員の連携状態が相互認識に及ぼす効果

土居 正城（上越教育大学大学院学校教育研究科）

加藤 哲文（上越教育大学臨床・健康教育学系）

P－21 中学生の教師との関係ストレス認知と諸問題行動の因果関係に関する検証
－望ましい教師の指導行動のあり方について－

折笠 国康（筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究科・米沢市立第五中学校）

P－22 学級劇活動に関する教師の介入の一事例

樽木 靖夫（横浜市立菅田中学校）

P－23 高校における副校長・教頭による支援に対する教員の意識

川口 英一（神奈川県立希望ヶ丘高等学校）

石隈 利紀（筑波大学大学院人間総合科学研究科）

【4班】

P－24 教師のサポートグループの構成要素としてのシェアリング過程尺度の開発

大友 秀人（北海商科大学）

P－25 小・中学校の教師の問題状況の捉え方から援助までのプロセスに関する一考察

坂井 優里（神奈川県立高津養護学校）

石隈 利紀（筑波大学大学院人間総合科学研究科）

P－26 ネットワークを活用して支えた統合失調症の一例

－学校と他機関によるコラボレーションのプロセスに着目して－

吉村 隆之（九州大学大学院人間環境学府）

P－27 被援助者側が期待する学校におけるチーム援助尺度の尺度の因子構造の検討－不登校をテーマに－

山本 麻衣子（跡見学園女子大学人文科学研究科）

山口 豊一（跡見学園女子大学） 宮崎 圭子（跡見学園女子大学）

P－28 母親の教師に対する教育的ニーズに関する研究

－特別な教育ニーズを持つ子どもの母親に焦点をあてて－

吉田 香衣（大学院人文科学研究科臨床心理学専攻）

山口 豊一（跡見学園女子大学）

P－29 高機能自閉症児・ADHD児を担当する教師への支援効果による校内研修の継続的・定期的コンサルテーション

福島 順子（嘉悦大学）

P－30 母親の子との関わりにおける育児不安と支援についての一考察

郷 歩（北翔大学大学院生涯学習学研究科）

P－31 中学校におけるチーム援助体制尺度の作成

－チーム援助の実践をめざして－

山口 豊一（跡見学園女子大学） 家近 早苗（聖徳大学） 樽木 靖夫（横浜

市立菅田中学校) 石隈利紀 (筑波大学人間総合科学研究科)

日本学校心理学会第 11 回大会実行委員会

大会実行委員長：山 谷 敬三郎
事務局長：浅 尾 秀 樹 (北翔大学学習コーチング学科長)
実行委員：岡 元 眞理子
加 藤 隆
木 下 教 子
小 杉 直 美
佐々木 邦 子
佐 藤 満 雄
佐 藤 義 昭
末 次 弘 明
那賀島 彰 一
中 山 雅 重
西 村 光 弘
舟 橋 安 幸

日本学校心理学会第11回大会プログラム・発表抄録集

発行日 2009年7月31日

発行者 日本学校心理学会第11回大会実行委員会
委員長 山 谷 敬三郎

〒069-8511 北海道江別市文京台23番地

北翔大学 生涯学習システム学部 学習コーチング学科
山谷研究室気付

Tel&Fax 011-387-3979 mail:yamaya@hokusho-u.ac.jp